

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北海道)	◎	観光名所（従業員）	・全国旅行支援の継続、クルーズ船の寄港、海外直行便の新規開設など、活況を期待できる要素が多くみられることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	商店街（代表者）	・外国人観光客が依然として好調に推移している。中国からの観光客は低調だが、その分、他国からの観光客が好調であり、今まで余りみられなかった欧米系の観光客も増えている。また、現状の外国人観光客は高所得者が多いため、消費額が多いことに加えて、マナーも良く、落ち着いた接客ができるようになってきている。これまで北海道では、東南アジア一辺倒だったが、状況が変わりつつあることがうかがえる。このため、今後の景気はやや良くなる。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	・10月の売上は、例年にない気温の高さが落ち着いたこと、天候に恵まれたこと、観光資源の周年イベントが行われたこと、外国人観光客が相当増加したことなどから、コロナ禍前の120%まで増加した。9月にみられたような国内観光客の買い控えもみられず、中には春の賃上げが良かったと話す客もみられた。これらのことから、今後の景気はやや良くなる。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	・今後については、本格的な冬の観光シーズンとなるため、インバウンドが数多く来道することが見込まれる。国内客も年末年始を中心に家族単位での観光が見込めるため、景気はやや良くなる。全国旅行支援が後押しになっているため、全国旅行支援が終了した後のことが心配ではあるが、足元の状況を見る限り、観光客の勢いは止まらないものとみられる。
	○	百貨店（売場主任）	・前年の年末は新型コロナウイルスの感染者数が増加していたこともあって、シニア世代の来店や購買が落ち込んでいたが、今年はそうした影響も考えにくいいため、期待できる。また、中国人観光客の増加が見込めることもプラスである。
	○	スーパー（店長）	・今年は気温が高めで推移していることから、冬物の動きがまだみられない。そのため、これから気温が下がり、冬物の需要が11月以降に集中することになれば、売上の伸びが期待できる。
	○	スーパー（店長）	・物価高騰の影響はあるものの、最低賃金引上げの効果で、家計の収入が増えることがプラス要素となる。また、当店のポイント制度改定の効果で、商圏内のシェアが上昇傾向にあることから、今後こうした流れは加速することになる。
	○	衣料品専門店（経営者）	・天候の影響を受けにくい季節となるため、今後の景気はやや良くなる。
	○	高級レストラン（スタッフ）	・コロナ禍前の状態に戻ることは考えにくいだが、景気が良くなりつつあることから、今後にも期待できる。
	○	旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルス感染症が5類に移行してから初めての冬の観光シーズンとなるため、各地の冬型イベントでの集客増が期待できる。円安傾向が継続していることから、東南アジアを中心にスキーなどのウィンタースポーツを目的とするインバウンドの増加も期待できる。
	○	旅行代理店（従業員）	・販売量が徐々に増えていることから、今後も同様の状況で推移することが期待できる。ただし、世界情勢を背景とした原価高騰により景気が落ち込むことになれば、販売量が減ることも懸念される。
	○	旅行代理店（従業員）	・今後について、旅行需要の増加が見込めるため、売上も増えることになる。
	○	タクシー運転手	・例年、冬季は移動面での制約が大きくなることで、売上が増加する傾向にあることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	タクシー運転手	・人の動きが良くなっていることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	通信会社（企画担当）	・久しぶりに行動制限のない年末となるため、客の外出機会が増え、店舗の来客数が増えることになる。売上増を期待している店長も多い。
○	観光名所（職員）	・水産物の輸出が徐々に回復傾向に転じることで、全体的に景気が良くなり、人の動きが活発になることを期待している。	

○	住宅販売会社（経営者）	・建売住宅の在庫が増えているため、今後、住宅メーカーが値引きを行い、在庫処分に走ることが見込まれる。住宅メーカー各社の在庫処分がある程度進むことで、住宅着工が少しずつ増えてくることを期待している。
□	商店街（代表者）	・燃料価格が高騰していることから、今後、客が出費を抑えるため、外出を控える傾向が強まるとみられる。また、大きなイベントなども予定されていないことから、景気は変化のないまま推移する。
□	一般小売店〔酒〕（経営者）	・コロナ禍からの回復の流れは変わっていないものの、最近になって、物価高の影響がみられるようになってきていることから、今後も景気は変わらない。
□	百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルス感染症が5類に移行して初めての年末年始となることから、海外旅行及び国内旅行の増加や帰省に伴う消費の拡大が見込まれるものの、物価高や燃料価格高騰の影響もあることから、景況感それほど変わらないまま推移する。
□	スーパー（店長）	・今後も値上げが相次ぐことから、景気は変わらないまま推移する。
□	スーパー（企画担当）	・年内は現状と同様の傾向で推移するとみられるが、年明け以降は年末の支出増の反動で節約志向が強まり、景気の回復傾向にブレーキが掛かるとみられる。
□	スーパー（役員）	・人手不足が深刻になってきており、おせちなどの正月商材の製造を手配できない状況が発生している。人手不足が売上増加に水を差すおそれが出てきている。
□	コンビニ（エリア担当）	・乗客数が前年を上回っていることは良い点であるが、これから始まるクリスマス、年末の予約商戦において買い控えが生じることが懸念される。
□	コンビニ（エリア担当）	・10月に入っても乗客数がなかなか回復しておらず、売上も上向いてこない状況にある。競合店の増えた地区では、その分マイナスが生じており、今後1年間は厳しい状況で推移する。
□	コンビニ（エリア担当）	・実質賃金が下がっているなど、景気が良くなる材料が見当たらない。
□	衣料品専門店（エリア担当）	・光熱費については、国の支援策の効果もあって、家計の出費が抑えられつつあるものの、社会情勢が不安定な状況はいまだに解決していないことから、今後も景気は変わらない。
□	家電量販店（経営者）	・エアコンや省エネ型給湯器への問合せが多く、省エネを検討している客の動きは引き続き活発に推移するとみられる。
□	家電量販店（店員）	・今後について、気温の低い日が続くことになれば、客の動きが上向くことを期待できるが、暖冬が予想されていることもあって、余り期待できない。
□	乗用車販売店（従業員）	・これから冬を迎えるため、今より販売台数が伸びることは考えにくい。今後の景気は良くて横ばいでの推移となる。
□	乗用車販売店（従業員）	・現状の受注残がある限り、前年以上の車両登録台数を確保できるとみられるが、ボーナスアップなどの原資を確保できるところまでは至らないとみられる。
□	乗用車販売店（従業員）	・新型車が発表されたにもかかわらず、販売量が増えてこないことから、今後も景気は変わらない。
□	住関連専門店（役員）	・商品が引き続き値上げ基調にあるため、客の購買意欲が現在よりも上向くとは考えにくい。
□	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・コロナ禍後にみられたようにわか景気も落ち着き、現在は客が健康に関する説明をきちんと受けた上で納得して買物する動きが定着してきた。健康に関する説明は客が他店に流れないようにするための重要なポイントであり、今後もこうした接客を続けていくことで、好調なまま推移する。
□	その他専門店〔造花〕（店長）	・景気が良くなるような傾向がみられないため、今後についても変化のないまま推移する。
□	高級レストラン（スタッフ）	・予約客は増えていないが、少人数の振り客が来店している状況から、年末に淡い期待を寄せている。経営を続けていくためにも、地元客を増やせるように取り組んでいきたい。
□	高級レストラン（スタッフ）	・今後については、閑散期となるため、乗客数の増加を期待できず、現在の景気動向と変化のないまま推移する。
□	スナック（経営者）	・先行きがどうなるか分からない状況であり、今後も景気はほとんど変わらないとみている。ただし、12月には多少の期待を持っている。

□	旅行代理店（従業員）	・コロナ禍明けに伴う需要回復は既に一定程度終了しており、今後の更なる販売量の増加を見込める要素が見当たらない。
□	タクシー運転手	・タクシーの売上は天候に左右されるため、初雪の予想が例年よりも遅いことがマイナスとなる。また、乗務員不足もすぐには解消されないことから、しばらくは9月までと同じように売上が前年を上回ることを期待できない。
□	タクシー運転手	・例年、冬になると観光客の動きが鈍くなり、客単価も低下する傾向にあることから、今年についても心配な面がある。
□	住宅販売会社（従業員）	・宅地の相場は落ち着き始めているが、建築コストが下がる見込みはなく、新築の販売価格も上昇傾向にある。購買のボリュームゾーンである20代後半から30代半ばの所得水準では共働きでの住宅購入が中心であり、住宅ローンの金利が上昇基調していることもあって、今後も厳しい販売状況が続くことになる。
▲	商店街（代表者）	・今後も物価高に賃金が追い付いていない状況が続くことになれば、景気はかなり厳しい状態になる。
▲	商店街（代表者）	・経済対策として、消費税減税を望んでいる客が多いが、実現は難しいと考えられるため、今後も客の消費マインドは変わらない。
▲	スーパー（店長）	・物価高の影響により、今後の景気はやや悪くなる。
▲	スーパー（店長）	・国の経済対策として、インパクトの強い対策が出てこない限り、景気回復は望めない。
▲	スーパー（企画担当）	・食料品を始めとした生活必需品について、価格の上昇又は高止まりが続いている。これからエネルギー価格の家計負担が増加する冬場を迎えることから、客の買い控えが強まることを見込まれる。
▲	スーパー（従業員）	・今後の景気については、冬季の天候に左右されることになる。
▲	衣料品専門店（店長）	・先行き不透明感が強いことから、納品までに時間が掛かるオーダースーツに対する客の反応が悪い。客にとって、今すぐ必要な商品だけが売れている状況であり、今後の景気も厳しいまま推移する。
▲	乗用車販売店（経営者）	・例年11月後半から12月にかけて、客の動きが鈍くなる時期であり、今年も受注状況が落ち込むことを見込まれる。
▲	乗用車販売店（経営者）	・建設業は活況のようだが、当社の客の中心である中小企業を取り巻く環境は厳しいため、今後の景気はやや悪くなる。個人消費についても、公共料金が引き上げられた影響が残っており、盛り上がりには欠ける。
▲	自動車備品販売店（店長）	・家計の支出負担が増加しているなか、これから冬を迎えて、灯油価格の高騰が更なる追い打ちを掛けることになり、消費がますます鈍くなる。周りから景気の良い話が聞こえてくることはなく、悲鳴が上がっているような状態である。
▲	旅行代理店（従業員）	・観光のオフシーズンに向かう時期であるため、例年と同様に売上も減少することになる。
▲	タクシー運転手	・観光客やイベント関係の予約が少なめである。一般客の利用が伸びる気配も感じられないことから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	通信会社（エリア担当）	・通信キャリアの施策の方向性が変わらない限り、景気が良くなることはない。
▲	美容室（経営者）	・最近、年金世代の客から、物価がこれだけ上がっているのに年金が増えるどころか控除される金額が増えて目減りしているとの話をよく聞くようになった。そのため、年金世代の客について、来店周期を伸ばす動きや商品の買い控えがみられるようになっており、今後の売上に影響が出てくることを懸念している。
▲	美容室（経営者）	・現状から、今より景気が良くなるとは考えにくい。一般家庭や中小企業に対する経済対策が望まれる。
▲	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・観光シーズンが終わることから、今後の輸送量は減少することになる。
▲	住宅販売会社（経営者）	・分譲マンションの価格が上昇しているなか、投資目的ではない客においては、所得の伸びが価格の上昇に追い付いていない状況にある。こうした客の所得が伸びてこない、分譲マンション市場は縮小することになる。本格的に金利が上昇し始めれば、投資目的の客も減ることになる。

	×	一般小売店（経営者）	・世界情勢及び国内経済について、先行き不安が強いため、今後の景気は悪くなる。
	×	観光型ホテル（スタッフ）	・冬の恒例イベントを控えた時期ということもあって、元々、年始を除けば客の動きの少ない時期である。また、大きな需要につながるようなイベントがないこと、国際線の需要が回復していないことから、これまでのようなインバウンドの動きも期待できない。ポジティブな要素がないため、今後の景気は悪くなる。
	×	タクシー運転手	・当地においては、大型店の撤退が相次いでいることから、今後の地域経済は一段と落ち込むことになる。国内消費を刺激するような景気対策が望まれる。
	×	通信会社（エリア担当）	・販売代理店施策が厳しいものになっていることから、今後の景気は悪くなる。
企業 動向 関連  (北海道)	◎	—	—
	○	農林水産業（経営者）	・来年2月の春節までのりんごの輸出が好調に推移することを期待している。
	○	広告代理店（従業員）	・国の経済対策の効果に期待している。
	○	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・都市部を中心に建設投資が増加していることから、今後の景気はやや良くなる。インバウンドの入込が好調なこと、各種イベントが再開されていること、飲食店における需要回復が進んでいることなどもプラス要素となる。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・今後も堅調な国内建設需要が見込まれる。
	□	建設業（役員）	・民間建築工事については、次年度繰越しの新規受注もあって、当面フル稼働状態が続く見通しである。ただし、技術職員の配置に余力がないため、これ以上の受注増加には対応できない状況にある。
	□	輸送業（支店長）	・荷主や同業者から、今後の荷物が増えるような情報が全く聞こえてこない。
	□	金融業（従業員）	・観光関連は今後も回復が続くと見込まれるものの、物価高やエネルギー価格の高止まり、円安が家計消費の下押し要因となることが懸念される。
	□	司法書士	・国の経済対策が話題になっているが、所得税減税は来年のことになるため、数か月後の景気が良くなるとは期待できない。また、これから冬を迎えて、暖房の必要な時期となるため、石油製品価格に中東情勢の影響が出てくることも懸念材料である。こうしたことから、今後の景気は現状維持が精一杯である。
	□	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・若干ではあるが、最近の受注量は増えている。ただし、今後については、建築物の計画見直しや延期などが相次いでいることから、状況が読めなくなっている。
	▲	食料品製造業（従業員）	・一定程度の売上はあるが、原材料価格やエネルギー価格、人件費の高騰もあって、利益の出にくい構造となっている。利益を確保できるように価格改定を進めると、受注量が一層減るとみられるため、厳しい状況にある。
	▲	金属製品製造業（従業員）	・資材価格の高止まり、エネルギーコストの高騰、円安、人手不足、地球温暖化に伴う気候変動、地方の人口減少など、景気が良くなる要素が見当たらない。
	▲	建設業（経営者）	・例年のことだが、冬季に入ると新規の受注は減ることになる。今年は資機材費用の上昇及び人手不足が段々と深刻になっており、工程や原価に与える影響が大きくなることが懸念される。
	▲	建設業（従業員）	・施工者不足は今後ますます深刻になるとみられるため、今後の設計案件も減ることが見込まれる。
	▲	通信業（営業担当）	・当社及び周囲の企業で、原材料価格の高騰、人手不足を懸念する声が大きくなってきていることから、今後の景況感はやや悪くなる。
	▲	司法書士	・今後も地方都市における人口減少や高齢化が進展するとみられるため、景気は悪化することになる。ただし、大型施設の誘致などができれば、多少は状況が変わってくる。
▲	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・下期の受注確定が見込みよりも遅れているため、今後の景気はやや悪くなる。	
▲	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・建設投資マインドが落ち込んでいることで、取引先の受注量が前年と比べて減少している。そのため、今後の景気はやや悪くなる。	

	×	—	—
雇用 関連	◎	—	—
(北海道)	○	学校 [大学] (就職担 当)	・2020年～2022年にかけての新卒採用は新型コロナウイルス感染症 などの影響で企業側の動きが低調であったが、現在は大分復調して いる。今後も少しずつ景気が上向くことを期待している。
	□	人材派遣会社 (社員)	・年末に向けて、販売系の仕事や飲食店の求人数が増加するとみら れるが、求職者が積極的に応募するとは考えにくく、求人側が人材 確保に苦戦することになる。
	□	求人情報誌製作会社 (編 集者)	・地方の人口減少と労働力不足には因果関係があるため、企業の人 材確保について将来的な危うさを感じられる。
	□	求人情報誌製作会社 (編 集者)	・今後の景気が良くなるような話題がないため、現在の状況がしば らく続くことになる。
	□	職業安定所 (職員)	・物価、資材価格、燃料価格、電気料金の高騰など、事業環境の悪 化を招く要因は多く、新規求職者数と有効求職者数もほぼ横ばいで 推移している。ただし、業況堅調な事業所からの新規求人数が引き 続きコンスタントに公開されていることはプラスである。これらの ことから、今後も景気は変わらない。
	□	職業安定所 (職員)	・当地における月間有効求人数は6か月連続で前年を下回ってい る。産業や業種によってその度合いは異なっているが、新型コロナ ウイルスの感染状況、経済活動や消費行動の動向によっては先を見 通せない状態となることも懸念される。
	▲	求人情報誌製作会社 (編 集者)	・円安や物価高に対する効果的な対策や将来的な展望が示されない 限り、客の財布のひもは固くなっていく。そのため、今後の景気は やや悪くなる。
	▲	求人情報誌製作会社 (編 集者)	・インボイス制度の導入により企業の余力が奪われているケースが みられる。さらに、来年1月からの電子帳簿保存法の義務化によ り、中小零細企業の負担がますます増えることになり、景気にマイ ナスの影響が出てくることが懸念される。
	▲	職業安定所 (職員)	・原材料、燃料費、日用品などの価格高騰が続いている一方で、そ れを上回るような賃上げがみられないことから、実質賃金の目減り が続いている。そのため、今後の景気はやや悪くなる。
	×	*	*